

## ○学位プログラム名

人文基礎（修士）

### 教育の目的

- ・人文基礎、すなわち、哲学および芸術学という学問領域において、国際的に有意義な研究を推進する能力を育成する。
- ・学士課程での学習や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・哲学および芸術学という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った教養知識を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。
- ・教育・研究に関連した職業に就き、哲学および芸術学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 哲学を対象とする領域では、古典的な文献著作を厳密に読解するとともに、重要な先行研究に基づいてその内容を批判的に検討し考察できる。
- b 芸術学を対象とする領域では、芸術作品を正確に理解するとともに、重要な先行研究をふまえて作品を分析し考察できる。
- c 哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、これらのうち一つについて、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 哲学および芸術学の領域に関する文献や一次資料を厳密に読解する能力を身につける。
- b 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。
- c 哲学的著作あるいは芸術作品について実証的に考察し、かつ理論的な分析を加えることができる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。
- b 人文科学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。
- c 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示する能力を身につける。

## **C 態度・志向性**

- a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性を持つ。
- b 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。
- c 哲学あるいは芸術学の発展に自ら寄与しようとする意欲を持つ。

## ○学位プログラム名

歴史空間論（修士）

### 教育の目的

- ・文献史学・考古学・地理学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。
- ・学士課程での学習や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・歴史・地理という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。
- ・教育・研究に関連した職業に就き、文献史学・考古学・地理学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 収集した史資料・データを文献史学・考古学・地理学的方法論にもとづいて的確に分析し、実証的な歴史像および歴史・地域認識を提示することができる。
- b 日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 歴史空間論の領域に関する文献史料や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。
- b 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。
- c 人類の歴史・空間に関わる諸事象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。
- b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。
- c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。
- d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。

- e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。

## C 態度・志向性

- a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。
- b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。
- c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。
- d 歴史学あるいは地理学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。
- e 人文学の視点から社会への還元を志向する。

## ○学位プログラム名

言語・文学（修士）

### 教育の目的

- ・言語および文学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。
- ・学士課程での学習や学問的経験を基盤にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても多角的に考察しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・言語という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・博士課程に進学し、専攻する学問領域においてさらに研究を深化させて、独創的な成果をあげること。
- ・教育・研究に関連した職業に就き、文学研究あるいは言語学の体系的な知識や方法論を社会に普及させ、その一層の活用を図ること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 言語を対象とする領域では、収集した言語データを言語学的方法論にもとづいて的確に分析し、文法的な構造や特徴を理論的に説明できる。
- b 文学を対象とする領域では、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえつつその内実を深く掘り下げて説明できる。
- c 国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 人文基礎の領域に関する文献や一次資料、調査データを蒐集し、分析可能な資料体にまとめることができる。
- b 関連する先行研究について基礎的な書誌を作成できる。
- c 文学的あるいは言語的表象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。
- b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。
- c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。

- d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。
- e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。

### **C 態度・志向性**

- a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。
- b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。
- c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。
- d 文学研究あるいは言語学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。
- e 人文学の視点から社会への還元を志向する。



科目名	学位プログラムの到達目標														
	A 知識・理解		B-1技能(専門的能力)			B-2技能(汎用的能力)					C 態度・志向性				
	a	b	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
<b>【現代文化論科目】</b>															
現代文化論A											○				○
現代文化論B											○				○
現代文化論C		◎					◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
現代文化論D											○				○
<b>【論文指導】</b>			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎		◎	◎	
<b>【授業科目】</b>															
日本古代史特論	○	○	○			◎	○		◎	○			◎	○	◎
日本中世史特論	○	○	○			◎	○		◎	○			◎	○	◎
日本近世史特論	○	○	○			◎	○		◎	○			◎	○	◎
日本近代史特論	○	○	○			◎	○		◎	○			◎	○	◎
日本史特論	○	○	○			◎	○		◎	○			◎	○	◎
日本古代史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
日本中世史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
日本近世史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
日本近代史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○	○
日本古代史史料研究	◎		◎		○	○	◎	○	○		○	○		◎	
日本中世史史料研究	◎		◎		○	○	◎	○	○		○	○		◎	
日本近世史史料研究	◎		◎		○	○	◎	○	○		○	○		◎	
日本近代史史料研究	◎		◎		○	○	◎	○	○		○	○		◎	
日本史史料研究	◎		◎		○	○	◎	○	○		○	○		◎	
中国政治史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎		○		◎	○	◎
中国文化史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎		○		◎	○	◎
中国社会史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎		○		◎	○	◎
中国経済史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎		○		◎	○	◎
中国政治史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
中国文化史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
中国社会史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
中国経済史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
アジア内陸圏史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
アジア海域圏史研究	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○	○
朝鮮古代史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
朝鮮中世近世史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
朝鮮近現代史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
朝鮮文化史特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
朝鮮古代史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
朝鮮中世近世史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
朝鮮近現代史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
朝鮮史料研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
朝鮮文化史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
朝鮮思想史研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
日本考古学特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
東アジア考古学特論	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	◎
日本考古学研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東アジア考古学研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
東アジア比較考古学研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ヨーロッパ中世文化史特論	◎	◎				◎									
ヨーロッパ近世社会特論	◎	◎				◎									
ヨーロッパ現代史特論	◎	◎				◎									
ヨーロッパ前近代社会史特論	◎	◎				◎									
ヨーロッパ近代社会史特論	◎	◎				◎									
広域文明史学研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ中世文化史研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ中世史料研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ近世社会研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ近世史料研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ現代史研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
ヨーロッパ現代史料研究			◎	◎			◎	◎			◎		◎		
イスラム文化史特論	◎	○	○		○	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○
イスラム中世社会史特論	◎		◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		○	○
イスラム近世・近代社会史特論	○	○	○	◎	◎	○		◎		○		○	◎		○
イスラム文明史研究	◎	◎	◎	○		○	○	○		◎		○	◎	◎	◎
イスラム近世・近代社会史研究	○	◎	○		○		◎		◎	◎		○	◎	○	○
イスラム史料研究	◎	◎		○	○	○		◎	◎		○	○	◎	◎	◎
人文地理学特論	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
文化地理学特論	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
空間動態論特論	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会経済地理学特論	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
人文地理学研究	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
文化地理学研究	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
空間動態論研究	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
修士論文	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○

科目名	学位プログラムの到達目標															
	A 知識・理解			B-1技能(専門的能力)			B-2技能(汎用的能力)					C 態度・志向性				
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
<b>【現代文化論科目】</b>																
現代文化論A										○		○		○		○
現代文化論B										○	○			○		○
現代文化論C										○				○		○
現代文化論D										○				○	○	○
<b>【論文指導】</b>	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
<b>【授業科目】</b>																
日本語学方法論特論	◎		○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
日本語学特論	◎		○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
日本語史特論	◎		○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
日本古代語史研究	◎		○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本近代語史研究	◎		○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本語史資料研究	◎		○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本文学特論		◎	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
古代散文論特論		◎	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
中世散文論特論		◎	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
近世文芸史論特論		◎	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○	○
日本古代文学作品研究		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本中世文学作品研究		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本近世文学作品研究		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
日本近代文学作品研究		◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○
中国文学特論	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中国文学批評研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中国古代中世文学作品研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
中国近世近代文学作品研究	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
西洋古典文学特論		◎	○	◎	○				◎		○				○	
イギリス文学特論		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
アメリカ文学特論		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
英語学特論	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	
英語学研究	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	○
英語学特殊研究	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎
イギリス文学研究		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	
イギリス文化研究		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	
アメリカ文学研究		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
アメリカ文化研究		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	○
ドイツ古典文学研究史特論		◎	○	◎	○				◎			◎			○	
ドイツ近代文学研究史特論		◎	○	◎	○				◎			◎			○	
ドイツ現代文学批評特論		◎	○	◎	○				◎			◎			○	
ドイツ語学特論	◎		○	◎	○				◎		○				○	
ドイツ古典文学研究		◎	○	○		◎	◎		◎		○			◎	○	
ドイツ近代文学研究		◎	○	○		◎	◎		◎		○			◎	○	
ドイツ現代文学研究		◎	○	○		◎	◎		◎		○			◎	○	
ドイツ文学特殊研究		◎	○	○		◎	◎		◎		○			◎	○	
フランス古典文学研究史特論			◎		○			○	○	○	○			○	○	
フランス近代文学研究史特論			◎		○			○	○	○	○			○	○	
フランス現代文学批評特論			◎		○			○	○	○	○			○	○	
フランス古典文学研究		◎		○				○	○	○	○	○				
フランス近代文学研究		○		○				○	○	○	○	○				
フランス現代文学研究		○		○				○	○	○	○	○				
フランス文学特殊研究		○	○	○				○	○	○	○	○	○			○
言語基礎論特論	○		◎	○		○	◎	◎	○	○				○		○
理論言語学特論	○		◎	○		○	◎	◎	○	○				○		○
記述言語学特論	○		◎	○		○	◎	◎	○	○				○		○
言語学特論	○		◎	○		○	◎	◎	○	○				○		○
言語基礎論研究	◎		○	◎		○	◎	◎	○	◎		○	○			
理論言語学研究	◎		○	◎		○	◎	◎	○	◎		○	○			
記述言語学研究	◎		○	◎		○	◎	◎	○	◎		○	○			
言語学研究法	◎		○	◎		○	◎	◎	○	◎		○	◎		◎	○
修士論文	◎		◎	◎		◎	◎	◎	○	○		◎	○	◎	◎	○

人文科学府 修士課程 カリキュラムマップ

プログラム名: 人文基礎(修士)

	授 業 科 目				修士論文
	現代文化論科目(4単位)	特論	研究	論文指導(2単位)	
1年前期	現代文化論A I～II 現代文化論B I～II 現代文化論C I～II 現代文化論D I～II	<b>《哲学専修》</b> 哲学基礎特論 I～IV 哲学方法論特論 I～IV 認識論特論 I～IV 哲学の諸問題・特論 I～IV 古代哲学特論 I～IV <b>《倫理学専修》</b> 西洋倫理学特論 I～VIII 日本倫理学特論 I～VIII <b>《インド哲学史専修》</b> 東洋思想特論 II・III アジア宗教思想特論 I・IV <b>《中国哲学史専修》</b> 東洋思想特論 I・IV アジア宗教思想特論 II・III <b>《芸術学専修》</b> 現代芸術論特論 I～XIV 東洋美術史特論 I～XIV 西洋美術史(1)特論 I～XIV 西洋美術史(2)特論 I～XIV 西洋美術史(3)特論 I～XIV 美学芸術学特論 I～XIV	<b>《哲学専修》</b> 古代哲学研究 I～IV 西洋古代哲学史研究 I～IV 教父中世哲学史研究 I～IV 西洋近現代哲学史研究 I～IV 哲学方法論研究 I～IV 行為論研究 I～IV 自然・科学哲学研究 I～IV 論理学研究 I～IV 言語哲学研究 I～IV 現代哲学研究 I～IV <b>《倫理学専修》</b> 西洋倫理学研究 I～VIII 日本倫理学研究 I～VIII 現代倫理思想研究 I～VIII <b>《インド哲学史専修》</b> インド古代思想研究 I～II 古典インド思想研究 I～II 初期インド仏教史研究 I～II インド・チベット仏教史研究 I～II <b>《中国哲学史専修》</b> 中国古代中世思想研究 I～IV 中国近世近代思想研究 I～IV <b>《芸術学専修》</b> 現代芸術論研究 I～VIII 東洋美術史研究 I～VIII 西洋美術史(1)研究 I～VIII 西洋美術史(2)研究 I～VIII 西洋美術史(3)研究 I～VIII 美学芸術学研究 I～VIII	論文指導	「研究計画書」
1年後期					「修士論文題目届」 「修士論文」提出 最終試験
2年前期					
2年後期					

人文科学府 修士課程 カリキュラムマップ

プログラム名:歴史空間論(修士)

	授 業 科 目				修士論文			
	現代文化論科目(4単位)	特論	研究	論文指導(2単位)				
1年前期	現代文化論A I～II 現代文化論B I～II 現代文化論C I～II 現代文化論D I～II	<b>《日本史学専修》</b> 日本古代史特論 I～IV 日本中世史特論 I～IV 日本近世史特論 I～IV 日本近代史特論 I～IV 日本史特論 I～IV <b>《東洋史学専修》</b> 中国政治史特論 I～IV 中国文化史特論 I～IV 中国社会史特論 I～IV 中国経済史特論 I～IV 《朝鮮史学専修》 朝鮮古代史特論 I～IV 朝鮮中世近世史特論 I～IV 朝鮮近現代史特論 I～II 朝鮮文化史特論 I～II <b>《考古学専修》</b> 日本考古学特論 I～IV 東アジア考古学特論 I～IV <b>《西洋史学専修》</b> ヨーロッパ中世文化史特論 I～II ヨーロッパ近世社会特論 I～II ヨーロッパ現代史特論 I～II ヨーロッパ前近代社会史特論 I～II ヨーロッパ近代社会史特論 I～II <b>《イスラム文明史学専修》</b> イスラム文化史特論 I～IV イスラム中世社会史特論 I～IV イスラム近世・近代社会史特論 I～IV <b>《地理学専修》</b> 人文地理学特論 I～IV 文化地理学特論 I～IV 空間動態論特論 I～IV 社会経済地理学特論 I～IV	<b>《日本史学専修》</b> 日本古代史研究 I～IV 日本中世史研究 I～IV 日本近世史研究 I～IV 日本近代史研究 I～IV 日本古代史史料研究 I～IV 日本中世史史料研究 I～IV 日本近世史史料研究 I～X II 日本近代史史料研究 I～IV 日本史史料研究 I～IV <b>《東洋史学専修》</b> 中国政治史研究 I～IV 中国文化史研究 I～IV 中国社会史研究 I～IV 中国経済史研究 I～IV アジア内陸圏史研究 I～IV アジア海域圏史研究 I～IV <b>《朝鮮史学専修》</b> 朝鮮古代史研究 I～IV 朝鮮中世近世史研究 I～IV 朝鮮近現代史研究 I～II 朝鮮史史料研究 I～IV 朝鮮文化史研究 I～II 朝鮮思想史研究 I～II 《考古学専修》 日本考古学研究 I～IV 東アジア考古学研究 I～IV 東アジア比較考古学研究 I～IV <b>《西洋史学専修》</b> 広域文明史学研究 I～IV ヨーロッパ中世文化史研究 I～II ヨーロッパ中世史料研究 I～II ヨーロッパ近世社会研究 I～II ヨーロッパ近世史料研究 I～II ヨーロッパ現代史研究 I～II ヨーロッパ現代史料研究 I～II <b>《イスラム文明史学専修》</b> イスラム文明史研究 I～IV イスラム近世・近代社会史研究 I～IV イスラム史料研究 I～IV <b>《地理学専修》</b> 人文地理学研究 I～IV 文化地理学研究 I～IV 空間動態論研究 I～IV	論文指導	「研究計画書」			
1年後期						2年前期	2年後期	
2年前期								
2年後期								「修士論文題目届」 「修士論文」提出 最終試験

人文科学府 修士課程 カリキュラムマップ

プログラム名: 言語・文学(修士)

	授 業 科 目				修士論文
	現代文化論科目(4単位)	特論	研究	論文指導(2単位)	
1年前期	現代文化論A I～II 現代文化論B I～II 現代文化論C I～II 現代文化論D I～II	<b>《国語学・国文学専修》</b> 日本語学方法論特論 I～IV 日本語学特論 I～IV 日本語史特論 I～IV 日本古代語史研究 I～IV 日本近代語史研究 I～IV 日本語史資料研究 I～IV 日本文学特論 I～IV 古代散文論特論 I～IV 中世散文論特論 I～IV 近世文芸史論特論 I～IV	<b>《国語学・国文学専修》</b> 日本古代文学作品研究 I～IV 日本中世文学作品研究 I～IV 日本近世文学作品研究 I～IV 日本近代文学作品研究 I～IV <b>《中国文学専修》</b> 中国文学批評研究 I～IV 中国古代中世文学作品研究 I～IV 中国近世近代文学作品研究 I～IV <b>《共通科目》</b> 西洋古典文学特論 I～IV <b>《英語学・英文学専修》</b> 英語学研究 I～IV 英語学特殊研究 I～IV イギリス文学研究 I～VIII イギリス文化研究 I～IV アメリカ文学研究 I～VIII アメリカ文化研究 I～IV	論文指導	「研究計画書」
1年後期		<b>《中国文学専修》</b> 中国文学特論 I～IV <b>《共通科目》</b> 西洋古典文学特論 I～IV <b>《英語学・英文学専修》</b> イギリス文学特論 I～X アメリカ文学特論 I～VIII 英語学特論 I～VIII <b>《独文学専修》</b> ドイツ古典文学研究史特論 I～IV ドイツ近代文学研究史特論 I～IV ドイツ現代文学批評特論 I～IV ドイツ語学特論 I～IV <b>《仏文学専修》</b> フランス古典文学研究史特論 I～II フランス近代文学研究史特論 I～II フランス現代文学批評特論 I～II	<b>《独文学専修》</b> ドイツ古典文学研究 I～IV ドイツ近代文学研究 I～IV ドイツ現代文学研究 I～IV ドイツ文学特殊研究 I～IV <b>《仏文学専修》</b> フランス古典文学研究 I～II フランス近代文学研究 I～II フランス現代文学研究 I～II フランス文学特殊研究 I～X		
2年前期		<b>《独文学専修》</b> ドイツ古典文学研究史特論 I～IV ドイツ近代文学研究史特論 I～IV ドイツ現代文学批評特論 I～IV ドイツ語学特論 I～IV <b>《仏文学専修》</b> フランス古典文学研究史特論 I～II フランス近代文学研究史特論 I～II フランス現代文学批評特論 I～II	<b>《独文学専修》</b> ドイツ古典文学研究 I～IV ドイツ近代文学研究 I～IV ドイツ現代文学研究 I～IV ドイツ文学特殊研究 I～IV <b>《仏文学専修》</b> フランス古典文学研究 I～II フランス近代文学研究 I～II フランス現代文学研究 I～II フランス文学特殊研究 I～X		
2年後期		<b>《言語学専修》</b> 言語基礎論特論 I～IV 理論言語学特論 I～IV 記述言語学特論 I～IV 言語学特論 I～X	<b>《言語学専修》</b> 言語基礎論研究 I～IV 理論言語学研究 I～IV 記述言語学研究 I～IV 言語学研究法 I～II		

## ○学位プログラム名

人文基礎（博士）

### 教育の目的

- ・人文基礎、すなわち、哲学および芸術学という学問領域において、国際的に有意義な研究を推進する能力を育成する。
- ・修士課程での研究や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても、国際的な視点に立ち根源的に考究しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・哲学および芸術学という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った教養知識を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・哲学および芸術学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。
- ・当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 哲学を対象とする領域では、古典的な文献著作を厳密に読解するとともに、重要な先行研究に基づいてその内容を批判的に検討し考察できる。
- b 芸術学を対象とする領域では、芸術作品を正確に理解するとともに、重要な先行研究をふまえて作品を分析し考察できる。
- c 哲学、倫理学、インド哲学史、中国哲学史、芸術学、これらのうち一つについて、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。
- b 哲学的著作あるいは芸術作品について実証的に考察し、かつ理論的な分析を加えることができる。
- c 研究成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。
- b 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛える。

c 専門分野の学習を通じて人文科学と社会のかかわりについて問題意識を育む。

**C 態度・志向性**

a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性を持つ。

b 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。

c 人文科学の視点から社会への貢献を志向する。

## ○学位プログラム名

歴史空間論（博士）

### 教育の目的

- ・文献史学・考古学・地理学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。
- ・修士課程での研究や学問的経験を基礎にしてより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても、国際的な視点に立ち根源的に考究しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・歴史・地理という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・文献史学・考古学・地理学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。
- ・当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 収集した史資料・データを文献史学・考古学・地理学的方法論にもとづいて的確に分析し、実証的な歴史像および歴史・地域認識を提示することができる。
- b 日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明史学、地理学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 歴史空間論の領域において、新たな方法論や知見を提起しうる研究者として自立した研究活動ができる。
- b 歴史空間論の領域に関する文献史料や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。
- c 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。
- d 人類の歴史・空間に関わる諸事象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。
- b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。

- c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。
- d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。
- e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。

## C 態度・志向性

- a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。
- b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。
- c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。
- d 歴史学あるいは地理学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。
- e 人文学の視点から社会への還元を志向する。

## ○学位プログラム名

言語・文学（博士）

### 教育の目的

- ・言語および文学を対象とする学問領域において、国際的に競争力のある教育、研究指導、論文作成の環境を学生に提供する。
- ・修士課程での研究や学問的経験を基礎にしたより高度な専門教育を行い、現代社会の提起する諸問題に対しても、国際的な視点に立ち根源的に考究しうる人材を養成する。

○プログラムを修了した学生は、以下のようなことが期待される。

- ・言語という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用して、物事を根本から思索する能力を発揮すること。
- ・文学研究あるいは言語学の体系的な知識や方法論を活かすべく、大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすこと。
- ・当該の専門分野において独創性を発揮し、探究から得られた新たな学問的成果を世界に発信して、学問領域の発展に貢献すること。

### 到達目標

#### A 知識・理解

- a 言語を対象とする領域では、収集した言語データを言語学的方法論にもとづいて的確に分析し、文法的な構造や特徴を理論的に説明できる。
- b 文学を対象とする領域では、過去に蓄積された重要な文献、とりわけ古典を厳密かつ精確に読解し、先行研究を踏まえたテキストの解釈あるいは本文の校訂・注釈ができる。
- c 国語学・国文学、中国文学、英語学・英文学、独文学、仏文学、言語学ないしはこれらの領域を横断する研究のうち一つを対象として、当該分野における研究史と方法論を批判的観点から体系的に説明できる。

#### B 技能

##### B-1 専門的能力

- a 人文基礎の領域において、新たな方法論や知見を提起しうる研究者として自立した研究活動ができる。
- b 人文基礎の領域に関する文献や一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。
- c 関連する先行研究について網羅的な書誌を作成できる。
- d 文学的あるいは言語的表象について実証的に考察し、かつ理論的な分析をくわえて、その成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。

##### B-2 汎用的能力

- a 高度に専門的な知識を総合的に把握する能力を身につける。

- b 人文学の実証的な方法と理論的な思考力を身につける。
- c 口頭発表などの場での表現能力と討論におけるコミュニケーション能力を鍛え、他の領域と交流する視点を養う。
- d 専門分野の学習を通じて人文学と社会のかかわりについて問題意識を育む。
- e 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示し、実行する能力、またそのためのチームを運営する能力を身につける。

### **C 態度・志向性**

- a 自ら進んで課題を見つけ、それに取り組む積極性をもつ。
- b 共同研究において協力関係を築き、問題解決へ努力する協調性を備える。
- c 問題の解決にあたり様々なアプローチの可能性を柔軟に探る。
- d 文学研究あるいは言語学の発展に自ら寄与しようとする意欲をもつ。
- e 人文学の視点から社会への還元を志向する。

科目名	学位プログラムの到達目標											
	A 知識・理解			B-1 技能(専門的能力)			B-2 技能(汎用的能力)			C 態度・知識		
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c
【博士演習】	○	○	○		◎			◎		○	◎	
【論文指導】	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○
【博士論文】	○	○	◎	◎	◎	◎	◎		○	◎	◎	◎

科目名	学位プログラムの到達目標															
	A 知識・理解		B-1 技能(専門的能力)				B-2 技能(汎用的能力)					C 態度・知識				
	a	b	a	b	c	d	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
【博士演習】	○						○	◎	○	○	○	○	○	○		○
【論文指導】	○	○	○		○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
【博士論文】	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			○	◎		○	◎	○

科目名	学位プログラムの到達目標																
	A 知識・理解			B-1 技能(専門的能力)				B-2 技能(汎用的能力)					C 態度・知識				
	a	b	c	a	b	c	d	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e
【博士演習】	○	○	◎					◎	○	◎	◎	◎		○	◎		○
【論文指導】	○	○			○	○	◎	○	○	○			○		○	○	
【博士論文】	○	○		◎	○	◎			○				◎			◎	○

人文科学府 博士後期課程 カリキュラムマップ

プログラム名:人文基礎(博士)

	授 業 科 目		博 士 論 文
	博士演習(4単位)	論文指導(4単位)	
1年前期	博士演習(4単位)	論文指導	「博士後期課程研究計画書」
1年後期			「博士論文作成計画書」
2年前期			博士論文作成予備資格取得
2年後期			
3年前期			
3年後期			「博士論文」提出・審査

人文科学府 博士後期課程 カリキュラムマップ

プログラム名: 歴史空間論(博士)

	授 業 科 目		博士論文
	博士演習(4単位)	論文指導(4単位)	
1年前期	博士演習(4単位)	論文指導	「博士後期課程研究計画書」
1年後期			「博士論文作成計画書」
2年前期			博士論文作成予備資格取得
2年後期			
3年前期			
3年後期			「博士論文」提出・審査

人文科学府 博士後期課程 カリキュラムマップ

プログラム名:言語・文学(博士)

	授 業 科 目		博士論文
	博士演習(4単位)	論文指導(4単位)	
1年前期	博士演習(4単位)	論文指導	「博士後期課程研究計画書」
1年後期			「博士論文作成計画書」
2年前期			博士論文作成予備資格取得
2年後期			
3年前期			
3年後期			「博士論文」提出・審査